

秋田市教育委員会
会 議 録

平成 2 7 年 1 月定例会

秋田市教育委員会平成27年1月定例会会議録

- 1 日 時 平成27年1月23日(金)
午後3時30分～午後5時00分
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 委員長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員(教育長)
- 4 出席職員 教育次長
教育次長(教育研究所長事務取扱)
総務課長
総務課参事
学事課長
学校教育課長
学校教育課教職員室長
スポーツ振興課長
文化振興室長
生涯学習室長
総務課長補佐
総務課副参事
学事課長補佐
総務課主席主査
総務課主席主査
教育研究所主席主査
総務課主査
教育研究所主査
生涯学習室主査
総務課主任

5 議 題

【協議事項】

- (1) 平成 27 年度当初予算（案）に関する件について
- (2) 教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する件について

【教育長等の報告】

- (1) 平成 26 年度「新成人のつどい」の結果について
- (2) 平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における秋田市の結果について

6 議 事 午後 3 時 30 分開会

【平成 26 年 12 月定例会会議録の承認】

平成 26 年 12 月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

委員長が今回会議録の署名委員として委員 2 名を指名した。

【協議事項】

【非公開の議決】

委員長 協議事項(1)「平成 27 年度当初予算（案）に関する件」および(2)「教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する件」については、今後議会に提出され、審議される案件と聞いている。よって、現段階では公の場で審議した場合、事務局の説明や出席者の発言が制約されることにより、十分な審議ができなくなるおそれがあるので、秘密会として取り扱うこととし、日程の最後に審議したいと思うがどうか。

以上の発議があり、全員賛成により議決した。

【教育長等の報告】

(1) 平成 26 年度「新成人のつどい」の結果について

生涯学習室長 (資料に基づき説明)

委員 シャトルバスの利用者が減少しているが、天候がよかったことも影響しただろう。選択肢を確保するという観点から、来年度以降も継続してほしい。バス運行会社と意見交換を行うなどして、より利用が増えるような良いアイデアを探すとよいのではないか。

式典中、会場内で騒いだ参加者の集団がいたが、注意・指導をしながら適切な対応をしたと思う。ただ、あのような参加者がいる状況は望ましいものではなく、来年に向けて対策の工夫と検討が必要だ。

委員 2 階席ではスムーズに着席させることができていたので、例年と比較して誘導の仕方が良かったと思う。会場内で騒いだ集団については、アリーナ前方の中央部に固まって座っていたため対応が難しかったのではないか。派手な衣装で揃って入場してきた時点で、後ろに分散して座ってもらうなどの対策はできなかったのか。

生涯学習室長 前の 3 列は運営協力委員の友人に座ってもらっているが、その他は自由席となっているため、早めに来場して座った参加者を移動させることは難しい。今後、運営に協力してくれる参加者を増やすなど工夫したい。

委員 警察関係者が約 90 人となっており、多い印象を受けた。参加者は入場時、警察官に気が付いていたのか気になった。騒ぎを起こすような参加者に対する抑止力として考えれば入場時に警察官を見せた方がよいが、反面、その他の大多数の参加者が嫌な思いをすとも考えられるので、検討が必要だと思う。

騒いだ参加者たちが式典が始まる前に床を踏みつけ大き

な音を出していた。その時点で対処したほうがよかったのではないか。あのような行為をされて、運営委員がどんな気持ちだったかを思うと気の毒だ。

生涯学習室長 警察官の人数は例年50人ほどであるが、今年の参加者は騒ぎを起こす可能性があるという事前情報があり、増員してもらった。警察との協議の中では、警察の腕章を付けて配置するという案もあったが、かえって刺激するおそれがあるとの判断により、私服で見守ってもらうことになった。参加者から見れば、市職員との区別は付かなかったと思う。

妨害行為とみなして、騒いでいた参加者を退場させる選択肢もあったが、式典の進行を優先し、中断されない限りにおいて適度に注意しながら見守るべきと判断したものである。

委員 今年20歳になった学年は「ゆとり世代」の1期生と聞いたが、それは事実か。また、騒いだ集団には、中学生であった5年前から、そのような兆候があったのか。来年度以降も同様の事態が生じる可能性はあるのか。

学校教育課長 「ゆとり」という言葉が、学習指導要領に初めて出たのは昭和52年告示のものからである。その後の改訂でも、関心・意欲・態度を重視した学習指導の改善という意味で「ゆとり」は引き継がれた。今年の参加者は、平成10年改訂の学習指導要領のもと、生きる力の育成をめざして新設された総合的な学習の時間を経験した学年である。

来年度、新成人となる学年については、中学生であった当時、暴力等の問題が発生していた事実はある。

委員長 参加率が上がっており良い傾向である。また、シャトルバスについては委員が指摘したとおり、選択肢としてあった方が良さだろう。

警察官の人数は警察から報告があったものか教えてほしい。運営の妨げとなる集団に対しては、警察が介入するラ

インの見極めが難しいが、今回は進行の妨げとなる寸前のぎりぎりの状態で踏みとどまらせることができていた。改善点はあるが非常に良い対応だったと思う。

生涯学習室長 警察の人数は、警備の都合から正確な人数は明かせないとのことで、おおよその数である。妨害行為への対応は、事前に警察と詳しく打ち合わせをしており、まず市の職員が対応し、内容によって警察官も一緒に対応することとなっていた。式典を中断する事態に至らずよかったと思う。

(2) 平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における秋田市の結果について

教育次長 (資料に基づき説明)

委員 全身持久力を測る種目である「20mシャトルラン」は、どのように記録をとる種目か。

全体として、秋田県のデータは例年同じような傾向にあると思う。このデータを授業で活かしているのか。

教育研究所主査 「20mシャトルラン」は、20mの距離を一定のリズムに合わせて、何回往復できたかを測定するものである。

瞬発力・疾走能力については、本市の子どもたちは全国平均に比べて若干劣っている。走ること、投げることといった基本的な動きは、発達段階の特性上、幼少期に技能として身に付けることが、能力の向上に繋がる。小学校では4年前、中学校では3年前に学習指導要領が改訂になり、「体づくり運動」の領域で直接的に体力を高め、基本動作を身に付ける授業がある。その充実を図りながら体力向上に努めたい。

委員 質問紙調査の結果のうち小学校5年生の女子を見ると、9割が運動やスポーツをすることが好きと答えているが、学校で運動部やスポーツクラブに入っている子どもの数はそれほどでもない。また、中学校入学後に授業以外で自主的に運動する時間を持ちたい児童は7割近くとなって

いる。これらをどう解釈すればよいか。

教育研究所主査 運動やスポーツをするのが好きという回答は、体育の授業が楽しいという回答の数値と相関があるととらえる。小学校5年生女子の93.1%は、体育の授業が楽しいと回答していることから、運動部やスポーツ少年団に入るには至らないが、体育の授業は楽しく運動は好きという児童がある程度いることが読み取れる。それが、中学校入学後に運動をしたいという数字にも表れていると思われる。

委員 小学校のスポーツクラブや中学校の部活動の加入率の推移について教えてほしい。

教育研究所主査 小学校5年生のみを昨年と比較すると、今年度スポーツクラブ、少年団に加入している児童の数は、男子、女子共に減っている。具体的には、スポーツ少年団に入っている男子は昨年度73%に対し今年度は71%、女子は昨年度49%に対し今年度は46%となっている。本市全体のデータでは、スポーツ少年団の加入率は平成24年度25.9%、平成25年度25.1%、平成26年度25.1%となっており、中学校の運動部加入率は、平成24年度68%、平成25年度67%、平成26年度66%となっている。

委員 スポーツ少年団の全市の加入率は25%ほどとのことだが、中学校の運動部加入率が7割近くになることからすると随分低いと思う。何か理由があるのか。

スポーツ振興課長 平成25年度のスポーツ少年団の加入率のうち、1年生から3年生の低学年の加入率は約10%であり、4年生から6年生の高学年の加入率は39.5%である。低学年も含めていることから加入率が25.9%と比較的低く見えると考えられる。なお、平成17年の30%をピークに、その後少子化等の影響もあり加入率は減少している。

教育次長 中学校に関しては66%が運動部への入部であり、これに文化部23%を合わせると、90%程度の子どもたちが部活動に入部している。中学校では部活動に入るものだという意

識が浸透していることも理由にあるのではないか。一方、スポーツ少年団については、みんなが入るものという意識はなく、保護者の都合で入らない場合もあるため、加入率が相対的に低くなると考えられる。

委員 資料は全国と秋田市を比較したものだが、秋田県の平均は把握しているか。秋田県全体に同じような傾向があるか。

教育研究所主査 秋田県と秋田市を比較すると、若干、秋田市の方が数字は低い。個々の種目のデータからは、秋田県全体と秋田市で同じような傾向が出ている。

委員 実技に関する調査の結果を見ると、小学校の「ソフトボール投げ」は全国平均と同じだが、中学校の「ハンドボール投げ」になると全国平均以下になる。今年の小学校５年生と中学校２年生のデータなので、２つを連動して捉えることはできないが、ここ数年同じような傾向にあるとすれば、中学校になると投げる力が落ちる原因としてどんなことが考えられるか。

教育研究所主査 投げることに関する傾向は、例年同じ状況である。中学校になると投げる力が落ちる原因としては、外遊びの際にボールを投げる機会が全国に比べて少ないためとも考えられる。子どもたちに投げる力を身に付けさせるには、学校の体育の取り組みが大きな鍵である。

体育の授業では、小学校１年生から４年生の「体づくり運動」の中で投げる技能を扱っているが、それ以降は中学校３年生まで直接には扱われず、球技におけるパス等の動作に限られる。高学年になるにつれて恒常的に取り扱うことは難しくなるが、パス練習やキャッチボールなどの投げる動きをウォーミングアップ等で取り入れるよう周知したい。

委員 質問紙調査を見ると、普段ボールなどを投げる機会がある子どもの割合は、小学校では全国平均を下回るが中学校では全国平均にほぼ等しい数値である。何か理由があるの

か。

教育研究所主査 中学生は運動部に所属している割合が高いことから、質問紙調査においては、部活動の中で投げているとした回答が多くなり、全国平均に近かったと思われる。

委員 「ソフトボール投げ」は屋外で行うのか。また、中学校では「ハンドボール投げ」をしているが、子どもたちは使い慣れていないと思う。全国一律の条件で測定したものと考えてよいのか。

教育研究所主査 「ソフトボール投げ」は屋外で行う。ハンドボールは使い慣れていないため若干練習したうえで測定する。条件は全国どこも同じである。

【その他、委員から】

委員 中央教育審議会より「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が出された。新聞報道によると秋田市で対象となるのは小学校１０校、中学校３校となっている。どの学校か教えてほしい。

学校の適正配置については、これまでも柔軟に対応していると思うが、これらの小規模校の今後のあり方をどう考えるか。

学事課長 小学校１０、中学校３という数字は県が回答したものであり、特殊学級も含めて１学年１学級以下の学校を対象としている。秋田市で対象とされたのは、太平小、上新城小、浜田小、豊岩小、下浜小、川添小、種平小、戸米川小、大正寺小、勝平小千秋分校の小学校１０校および、下北手中、岩見三内中、勝平中千秋分校の中学校３校である。来年度検討委員会を立ち上げ、今後どうあるべきかを検討する。

委員 文部科学大臣表彰で秋田市の先生が表彰された。素晴らしいことだ。

教育次長 受賞された教師の在籍する学校では、子どもはもとより、校報等を通じて保護者や地域の方々に情報発信する予定で

あると聞いている。

委員長 インフルエンザが流行しているが、学級閉鎖等は起こっているのか。

学事課長 冬休みが終わって以降、学級閉鎖は８校で起こった。学年閉鎖になった学校もあり、増加傾向にある。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐 教育委員会２月定例会は、２月１７日(火)午後３時３０分からを予定している。

【協議事項】

- (1) 平成２７年度当初予算（案）に関する件について
- (2) 教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する件について

（協議事項(1)および(2)は、秘密会のため、秋田市教育委員会会議規則第２３条の規定に基づき、会議録に記載しない。）

午後５時００分閉会

以 上